

VI 男女共同参画社会の実現について

1 用語の周知度

問22 あなたは(a)～(n)のそれぞれの言葉についてどの程度ご存知ですか。該当する番号に1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

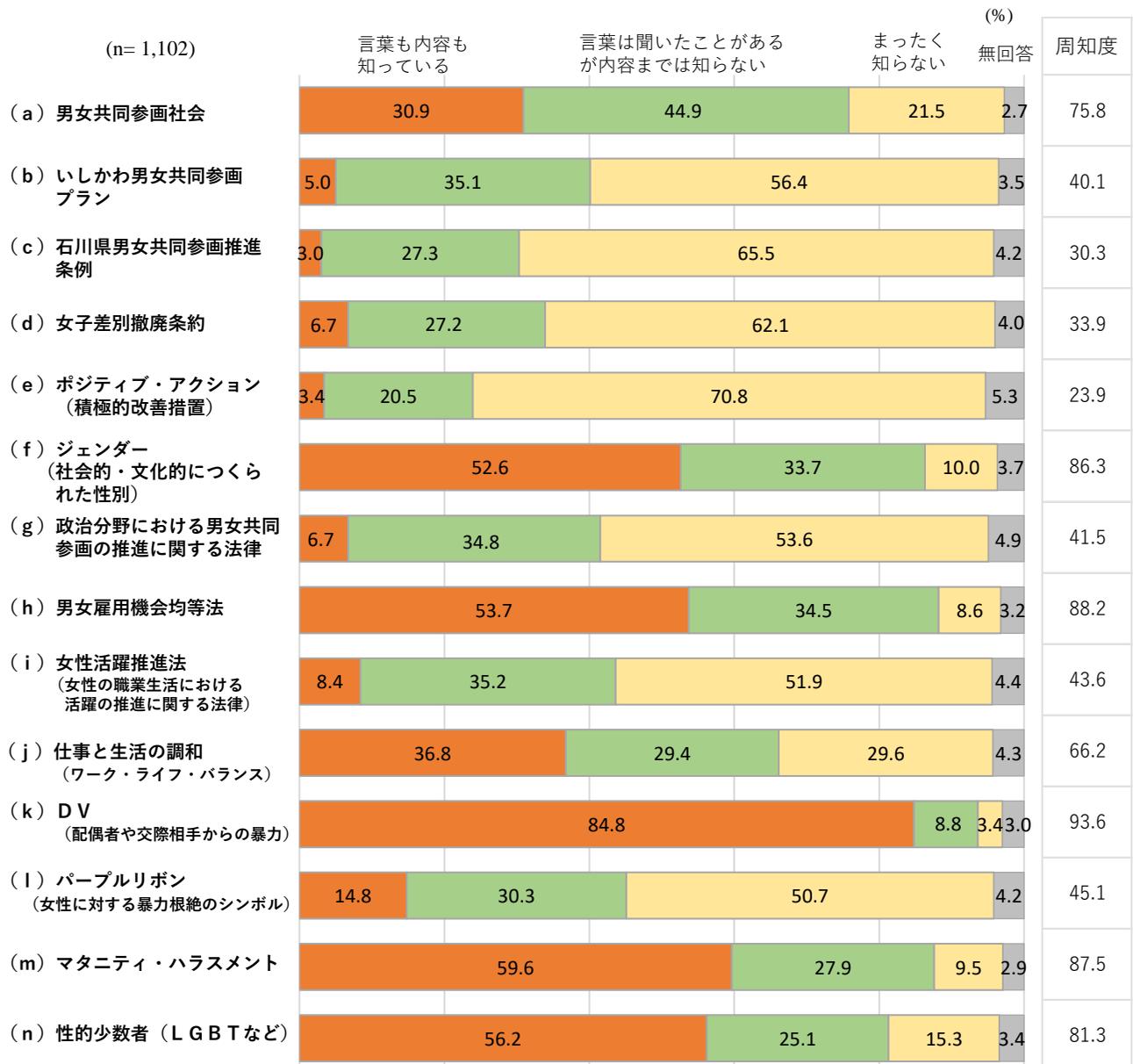
全体で周知度が高い順に、

- “ (k) DV (配偶者や交際相手からの暴力) ” (93.6%)
- “ (h) 男女雇用機会均等法 ” (88.2%)
- “ (m) マタニティ・ハラスメント ” (87.5%)
- “ (f) ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別) ” (86.3%)
- “ (n) 性的少数者 (LGBTなど) ” (81.3%)
- “ (a) 男女共同参画社会 ” (75.8%)
- “ (j) 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) ” (66.2%)

上記用語で、周知度が6割を超えている。

※周知度：「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことがあるが内容までは知らない」の合計

図22-1 用語の周知度 項目別一覧



1 用語の周知度

【令和2年度調査との比較】

前回調査と比べ、すべての用語で周知度が上昇している。周知度が前回調査と比べ5ポイント以上上回った用語は、以下の通り。

- “（f）ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）”（23.2ポイント）
- “（n）性的少数者（LGBTなど）”（12.6ポイント）
- “（l）パープルリボン（女性に対する暴力根絶のシンボル）”（9.0ポイント）
- “（i）女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）”（6.4ポイント）
- “（a）男女共同参画社会”（5.4ポイント）
- “（j）仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）”（5.2ポイント）
- “（g）政治分野における男女共同参画の推進に関する法律”（5.1ポイント）
- “（d）女子差別撤廃条約”（5.0ポイント）

図22-2 用語の周知度 【令和2年度調査との比較】

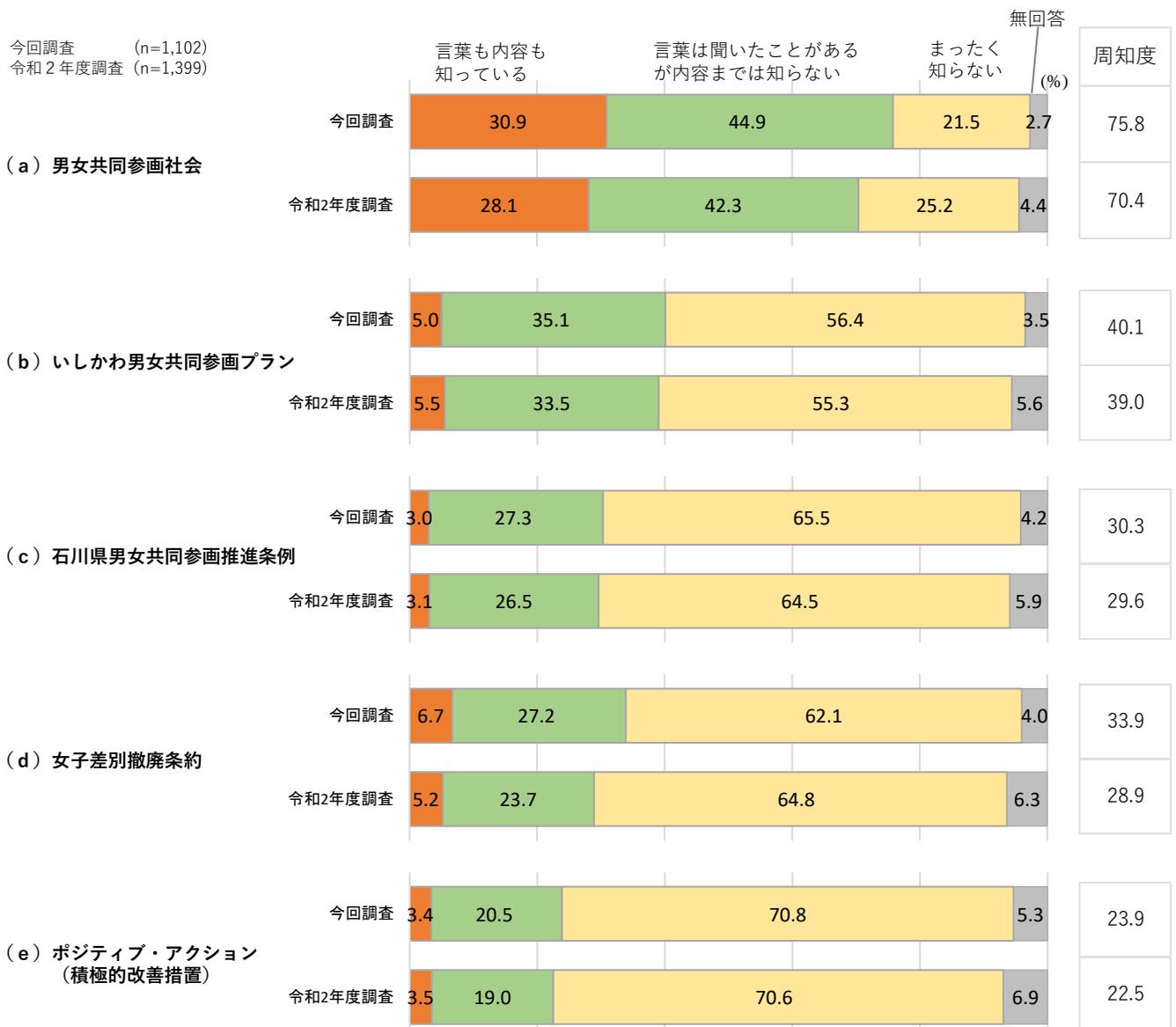
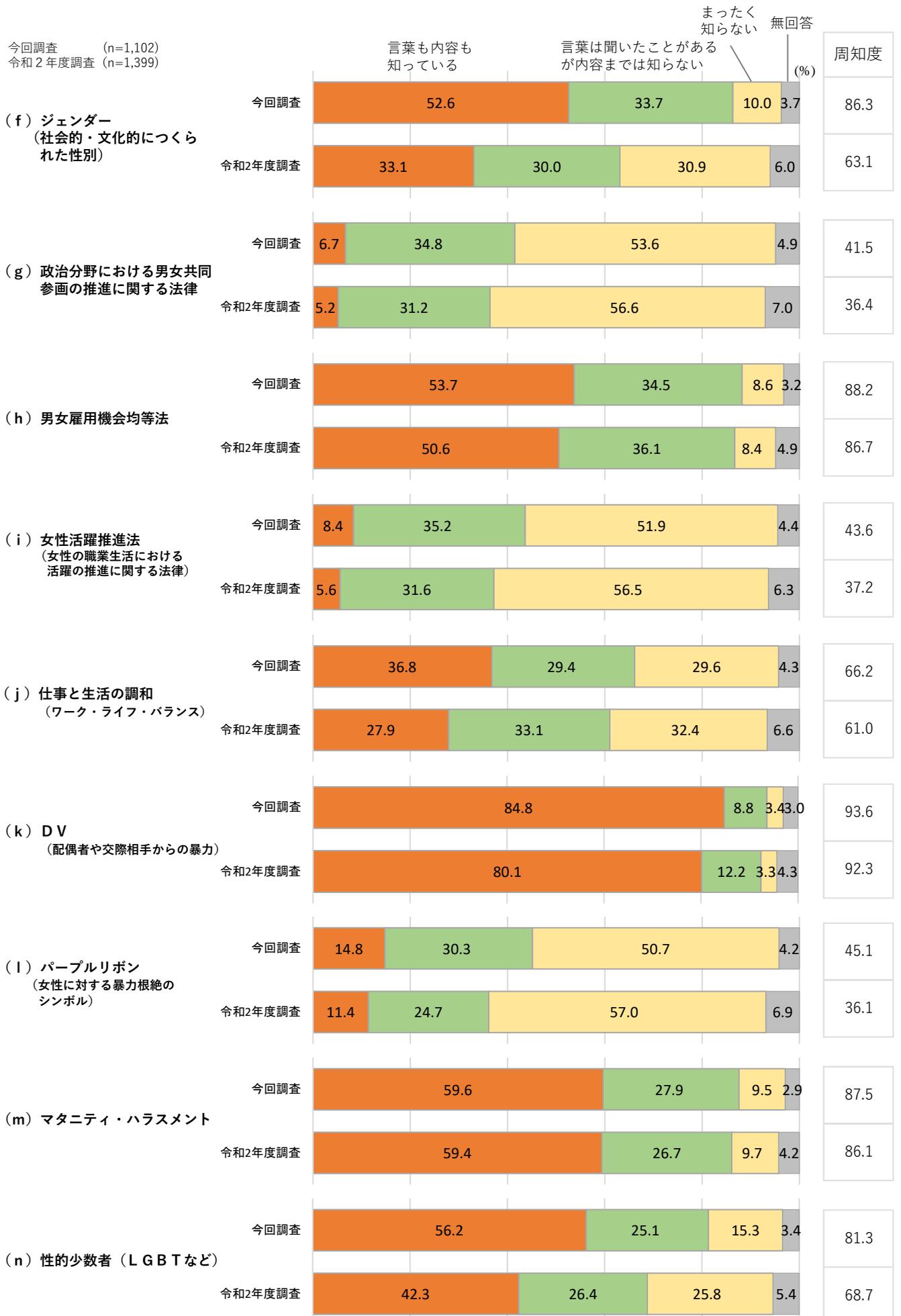


図22-2 用語の周知度 【令和2年度調査との比較】



2 性別による無意識の思い込み

問23 あなたは、次の(a)～(l)の考え方についてどう思いますか。あなたの気持ちに最も近いものの番号を1つずつ選んでください。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が多かったのは、男女とも同様に、
 “(k) 女性には女性らしい感性があるものだ” (女性73.5%、男性81.2%)
 “(a) 男性は仕事をして家計を支えるべきだ” (女性70.7%、男性76.0%)

男女とも「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計が最も多かったのは、
 “(j) 同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ” (女性88.6%、男性83.2%)であった。

男女で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計の差が大きいものとしては、
 “(c) 自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ” (13.7ポイント差)は女性が、
 “(d) デートや食事のお金は男性が負担すべきだ” (23.8ポイント差)と“(g) 男性は人前で泣くべきではない” (17.6ポイント差)は男性が上回っている。

図23-1 性別による無意識の思い込み 項目別一覧 (性別)

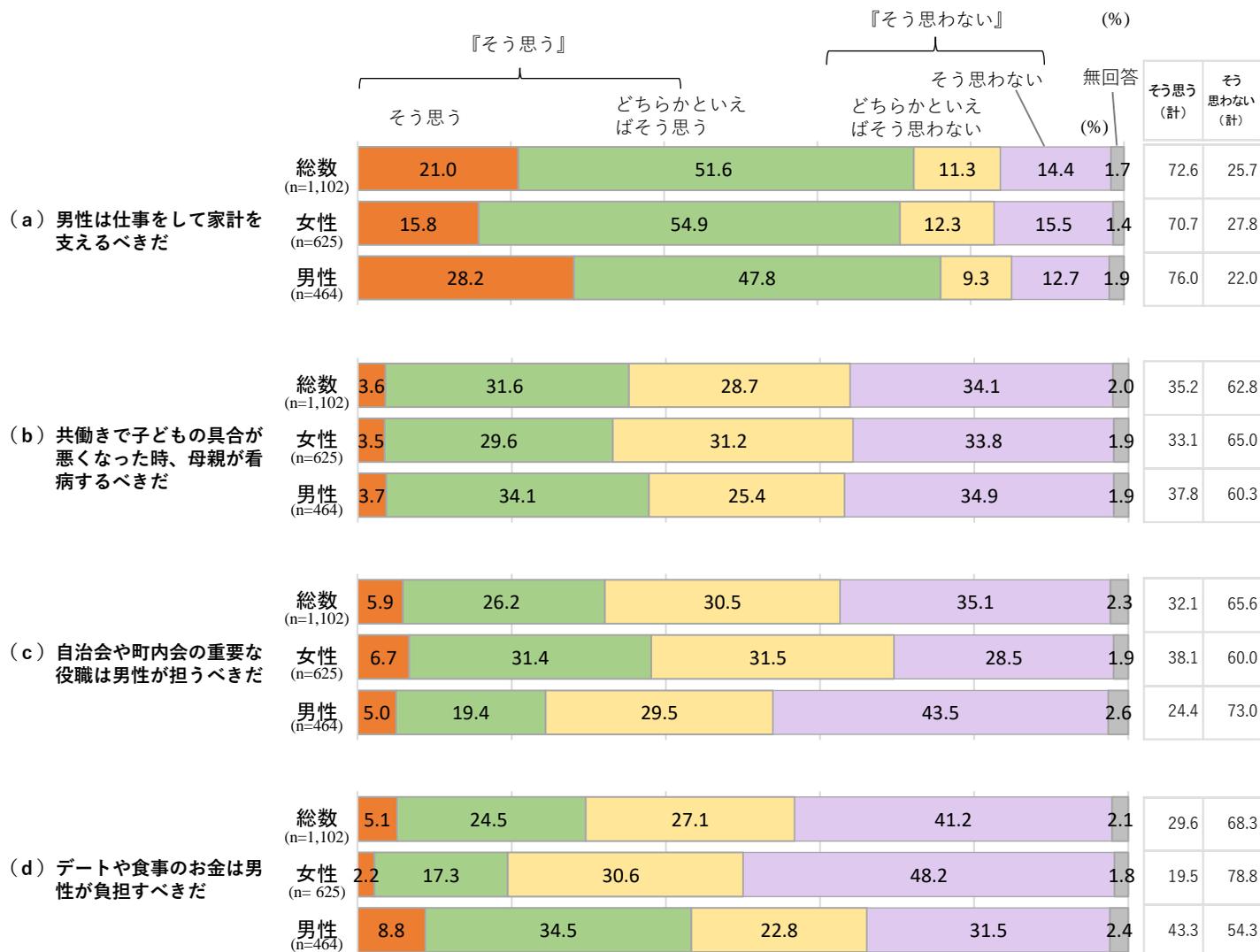
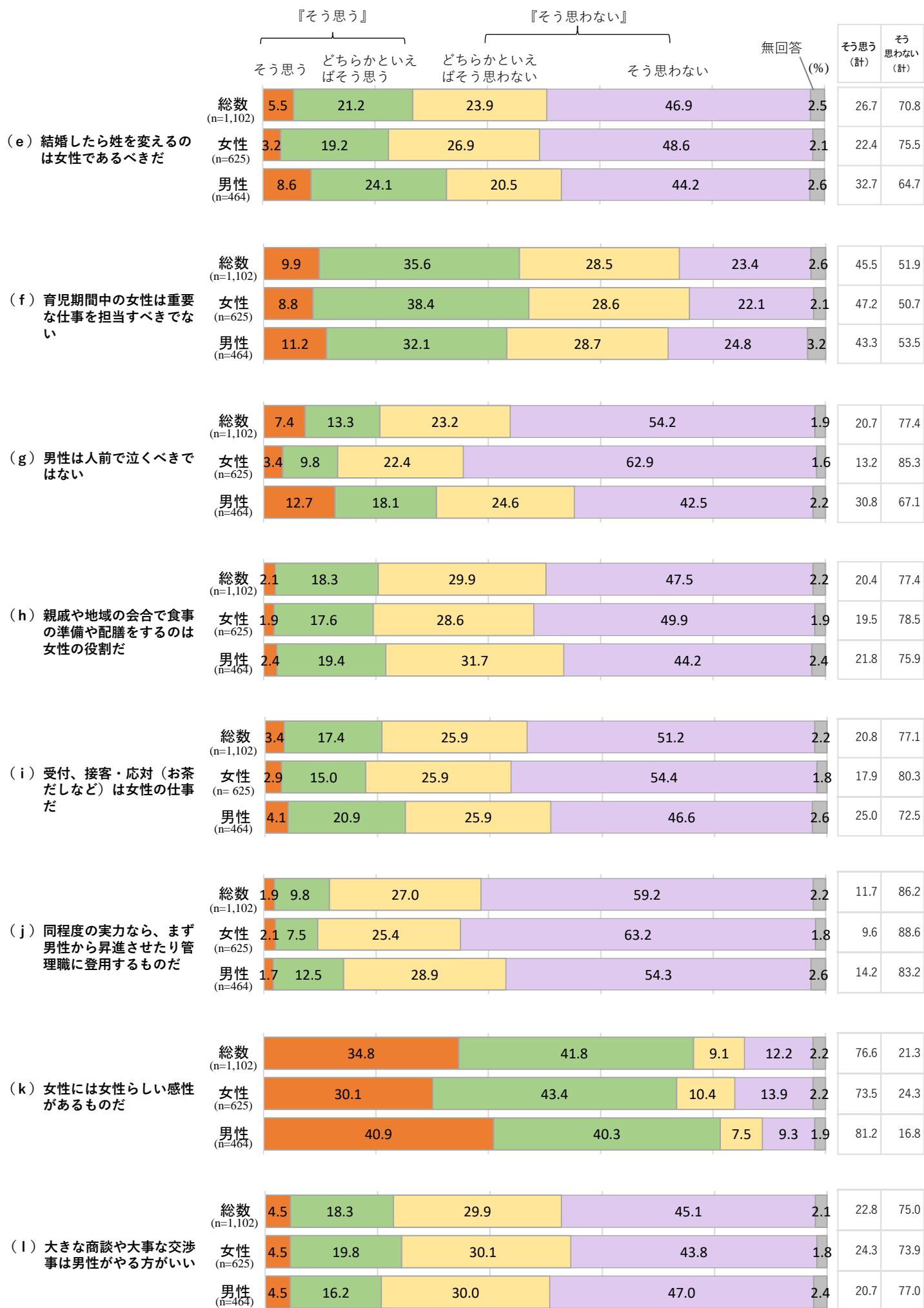


図23-1 性別による無意識の思い込み 項目別一覧（性別）



2 性別による無意識の思い込み

【令和4年度内閣府調査との比較】

『そう思う』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合で、内閣府調査と比べ、5ポイント以上上回った項目は、以下の通り。

- “（k）女性には女性らしい感性があるものだ”（32.3ポイント）
- “（a）男性は仕事をして家計を支えるべきだ”（25.9ポイント）
- “（b）共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ（12.6ポイント）
- “（c）自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ”（12.6ポイント）
- “（f）育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない”（12.0ポイント）
- “（e）結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ（6.3ポイント）

図23-3 性別による無意識の思い込み 【令和4年度内閣府調査との比較】

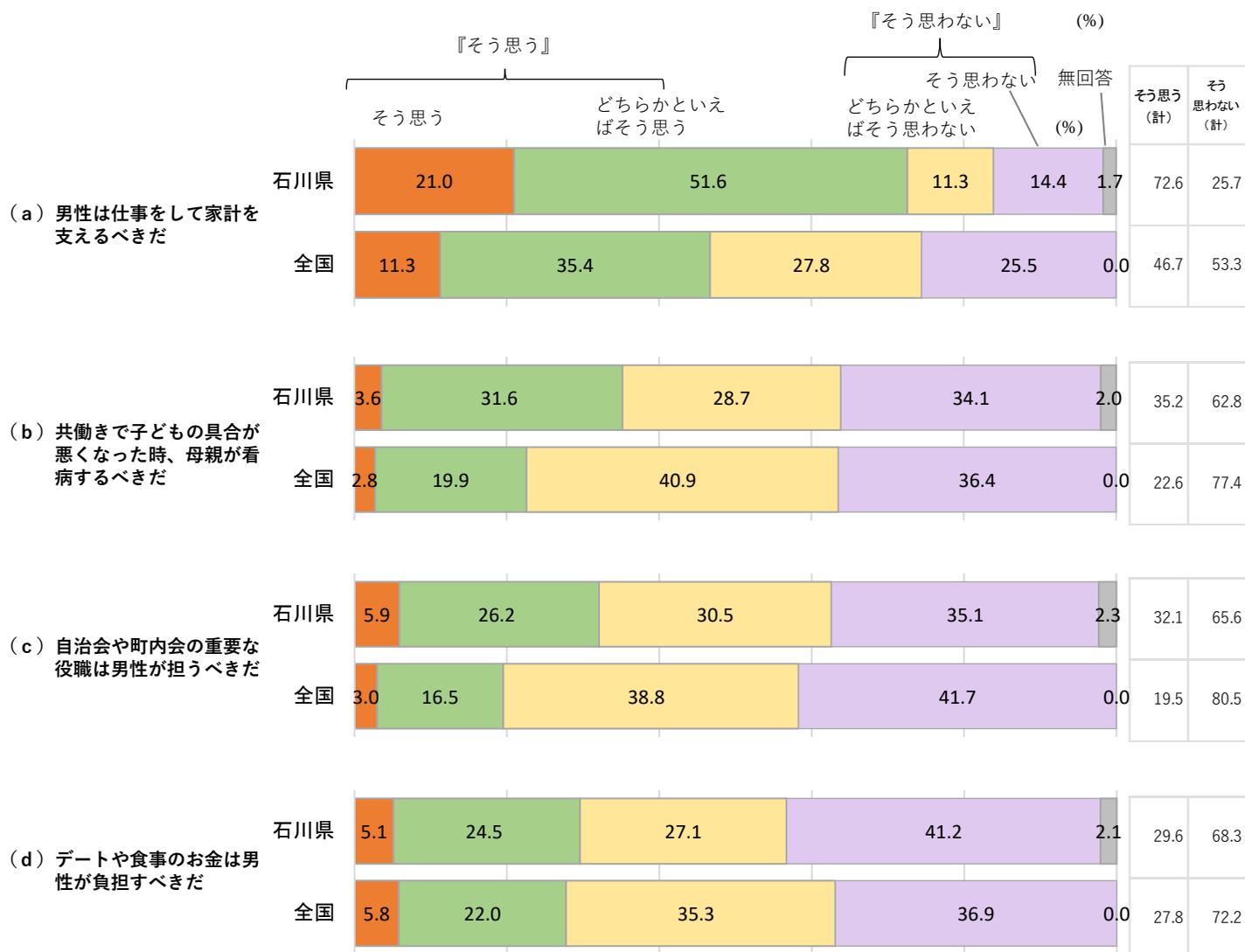
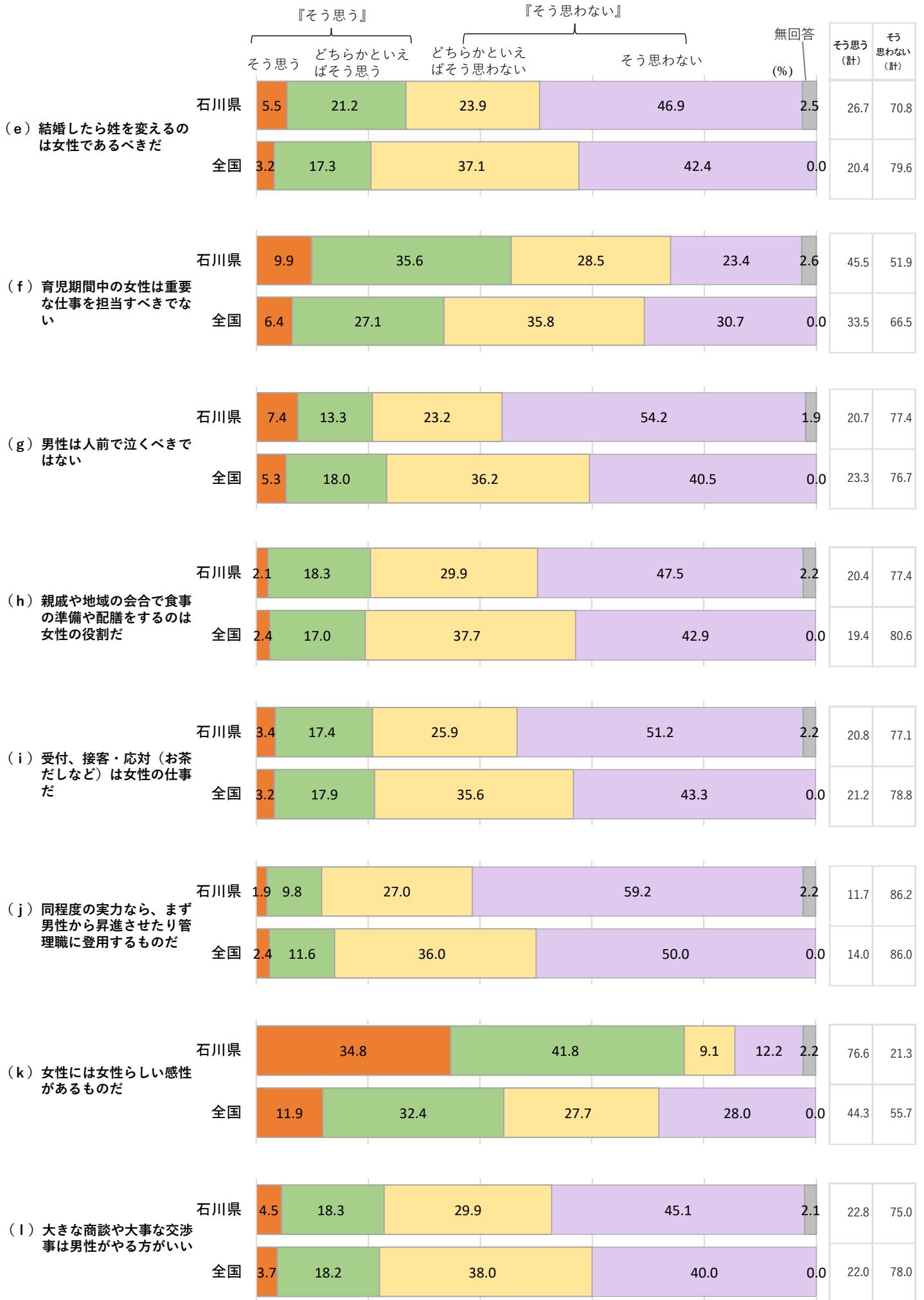


図23-3 性別による無意識の思い込み 【令和4年度内閣府調査との比較】



3 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと

問24 男女共同参画社会の実現のために、行政に対して望むことはどのようなことですか。
(○は3つまで)

全体では「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する」(52.0%)が最も多く、次いで「条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める」(39.6%)が続いている。

女性で最も多かったのは「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する」(57.3%)、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進める」(44.6%)となっている。

男性では「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する」(45.3%)が最も多く、次いで「条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める」(42.5%)となっている。

男女の差があるものとしては、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進める」(15.3ポイント差)、「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実する」(12.0ポイント差)で女性が多くなっている。

図24-1 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと 項目別一覧(総数)

